

Title	著訳者紹介
Author(s)	聖学院大学総合研究所
Citation	聖学院大学総合研究所紀要, No.53, 2012.3 : 9-14
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=4240
Rights	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

〔著 訳 者 紹 介〕

(掲載順)

阿久戸 光晴 あくど・みつはる

1951年生まれ。一橋大学社会学部・法学部卒。住友化学工業株式会社勤務を経て、東京神学大学博士課程前期修了後、米国エモリー大学神学部大学院ほか。その傍ら聖学院大学及び聖学院アトランタ国際学校開設業務を担当。その後聖学院大学宗教主任兼助教授を経て、現在、学校法人聖学院理事長・聖学院大学学長兼教授。その他日本聖書協会新翻訳事業検討委員、荒川区不正防止委員会委員長など。

〔著書〕『近代デモクラシー思想の根源』、『説教集 新しき生』、『ヴェーバー・トレルチ・イエリネック』(共著)、『神を仰ぎ人に仕う』(共著)、『キリスト教学校の形成とチャレンジ』(共著)ほか、著書・論文多数。

初宿 正典 しやけ・まさのり

1947年生まれ。京都大学大学院法学研究科修士課程修了。愛知教育大学教育学部助手・講師・助教授、京都大学教養部(当時)助教授を経て、1988年以来京都大学法学部教授、1992年京都大学大学院法学研究科教授。2012年4月から京都産業大学法務研究科教授。1976年より1977年までおよび2010年にフンボルト財団奨学生としてミュンヘン大学およびヴェルツブルク大学留学。専攻は憲法学、比較憲法論。

〔著書〕(抜粋)『憲法1 統治のしくみ(1)』(成文堂、2002年)、『憲法2 基本権〔第3版〕』(成文堂、2010年)、『Verfassung und Religion in Japan』, Schriftenreihe des Zentrums für rechtswissenschaftliche Grundlagenforschung Würzburg, Bd. 5 (NOMOS Verlagsgesellschaft/Baden-Baden, 2011)、『目で見る憲法〔第4版〕』〔共著〕(有斐閣、2011年)など多数。

〔編著〕『人権の現代的諸相』〔阿部照哉先生還暦記念=共編著〕(有斐閣、1990年)、『カール・シュミットとその時代』〔共編著〕(風行社、1997年)、『憲法五十年の展望Ⅰ・Ⅱ』〔共編著〕(有斐閣、1998年)、『現代社会における国家と法』〔阿部照哉先生喜寿記念=共編著〕(成文堂、2007年)、『民主権と法の支配〔上巻〕〔下巻〕』〔佐藤幸治先生古稀記念=共編著〕(成文堂、2008年)、『憲法判例〔第6版〕』〔共編著〕(有斐閣、2010年)など。

〔論文〕(抜粋)「人権概念史」(長尾龍一／田中成明編『現代法哲学2(法思想)』東京大学出版会、1983年)、「亡命と抵抗——ゲルハルト・ライプホルツの場合」(宮田光雄編『ドイツ教会闘争の研究』創文社、1986年)、『Zur Lage der Carl Schmitt-Forschung in Japan—Ein bibliographischer Überblick』, in: *Complexio Oppositorum*, hrsg. v. Helmut Quaritsch, 1988 Duncker & Humblot, Berlin, 1988, 「西ドイツの良心的兵役拒否法制の一断面」(法学論叢126巻4・5・6号, 1990

年)、「日本における宗教団体とその紛争処理」(佐藤幸治ほか編『現代国家と宗教団体』岩波書店, 1992年)、「フランクフルト憲法に及ぼしたアメリカ合衆国憲法の影響」(法学論叢134巻3・4号, 1994年)、「近代国家とデモクラシー思想: ドイツ—イエリネックを中心として」(聖学院大学紀要6号, 1995年)、「基本法前文における《神》の文言についての若干の覚書き」(法学論叢140巻3・4号, 1997年)、「《少数者の人権》について」(三島淑臣ほか編『ホセ・ヨンバルト教授古稀祝賀論文集 人間の尊厳と現代法理論』成文堂, 2000年)、「ドイツの結社法における宗教・世界観団体の地位」(樋口陽一ほか編『栗城壽夫先生古稀記念 日独憲法学の創造力〔上巻〕』信山社, 2003年)、「現代ドイツにおける宗教と法」(『法哲学年報2002』2003年)、「政治的統合としての憲法」(佐藤幸治ほか編『憲法五十年の展望 I 統合と均衡』有斐閣, 1998年)ほか多数。

〔訳書〕(抜粋)マイヤー=タッシュ『ホップズと抵抗権』〔共訳〕(木鐸社, 1974年), W. ラカー『ワイマル文化を生きた人々』〔共訳〕(ミネルヴァ書房, 1980年), S. ライプホルツ=ボンヘッファー/G. ライプホルツ『ボンヘッファー家の運命—その苦難・抵抗・勝利』(新教出版社, 1985年), H. クヴァーリチュ『カール・シュミットの立場と概念』〔共訳〕(風行社, 1992年), H. クヴァーリチュ『カール・シュミットの遺産』〔共編訳〕(風行社, 1993年), 『イエリネックとプトミー 人権宣言論争』〔編訳〕(みすず書房, 1995年), E.-W. ベッケンフェルデ『現代国家と憲法・自由・民主制』〔編訳〕(風行社, 1999年), K. ヘッセ『ドイツ憲法の基本的特質』〔共訳〕(成文堂, 2006年)など。

柳田 洋夫 やなぎだ・ひろお

1967年生まれ。東京大学文学部倫理学科卒。東京大学大学院人文科学研究科(倫理学)修士課程修了。同博士課程中退。東京神学大学大学院博士課程前期修了。聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科後期博士課程修了。博士(学術)。現在、聖学院大学人文学部副チャブレン、人文学部日本文化学科准教授、日本基督教団聖学院教会協力牧師。

〔論文〕「山路愛山における『共同生活』概念について」(『聖学院大学総合研究所紀要』37号, 2007年)、「リチャード・ニーバーの責任倫理と日本人」(『季刊 教会』No.68・69, 2007年)、「山路愛山の教育論」(『キャンパス ミニストーリー』第19号, 2009年)、「なぜ日本に文化の神学が必要なのか—内村鑑三の文明論を中心に—」(『聖学院大学総合研究所紀要』47号, 2010年)、「関東大震災と説教者 植村正久と内村鑑三に即して」(『説教黙想 アレタイア』, 日本キリスト教団出版局, 2011年)など。

〔訳書〕コリン・E・ガントン『説教によるキリスト教教理』(教文館, 2007年), アリスター・E・マクグラス『歴史のイエスと信仰のキリスト』(キリスト新聞社, 2011年)。

松本 周 まつもと・しゅう

東京神学大学大学院博士前期課程修了。聖学院大学大学院博士後期課程修了，博士(学術)。現在，聖学院大学総合研究所助教，日本基督教団教務教師。

〔論文〕「神学と社会福祉——ラインホルド・ニーバーの視点から」(『キリスト教社会福祉学研究』37, 2005年)，「日本におけるピューリタニズム倫理の受容」(『ピューリタニズム研究』2, 2008年)，「戦後日本とキリスト教——ピューリタニズム社会倫理の視点から」(聖学院キリスト教センター『キリスト教と諸学』25, 2010年)，「植村正久とP. T. フォーサイスの祈祷論——日本の教会における祈り理解の問題」(『ピューリタニズム研究』6, 2012年) ほか。

朴ヨングォン ぱく・よんくおん

高麗大学卒。長老会神学大学大学院修士課程修了(M.Div., Th.M.)。長老会神学大学大学院博士課程修了，神学博士。現在，ボンウォン教会主任牧師。

李 致 萬 い・ちまん

長老会神学大学神学大学院修了。同志社大学大学院神学研究科博士課程修了，神学博士。現在，長老会神学大学講師。

松谷 好明 まつたに・よしあき

1944年福島県生まれ。一橋大学社会学部卒。神戸改革派神学校(3年中退)，英国トリニティ・カレッジ神学校ならびにブリストル大学大学院(Dip.Th.)に学ぶ。Ph.D.(聖学院大学)。現在，聖学院大学総合研究所特任教授(ピューリタニズム研究室長)。

〔著書〕『ウェストミンスター神学会議の成立』，『ウェストミンスター神学会議議事録〈抄〉』，『ウェストミンスター神学会議——その構造化』，『ウェストミンスター礼拝指針——そのテキストとコンテクスト』(いずれも，一麦出版社)，『イングランド・ピューリタニズム研究』(聖学院大学出版会)。

〔訳書〕トマス・ブラウン『スコットランドにおける教会と国家』，『ウェストミンスター信仰告白と今日の教会』(いずれも，すぐ書房)，『ウェストミンスター信仰規準』(一麦出版社)，ポール・ヘルム『カルヴァンとカルヴァン主義者たち』(聖学院大学出版会)，トム・ウィルキンソン『ウェストミンスター信仰告白註解』上，下(一麦出版社)，ジョン・デ・グルーチー『キリスト教と民主主義——現代政治神学入門』(新教出版社)，ジェームズ・I・パッカー『ピューリタン神学総説』(一麦出版社) ほか。

高 萬松 こう・まんそん

1953年生まれ。東京神学大学院博士前期課程修了。聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科博士後期課程修了。博士(学術)。聖学院大学総合研究所助教。

〔著書〕『포사이스의 신의론 (フォーサイスの神義論)』(基督教連合新聞社, ソウル, 2007年)。

〔訳書〕『바른기도와그열매 (正しい祈りとその実り)』(大韓基督教出版社, ソウル, 1999年, P. T. Forsyth, *The Soul of Prayer*の韓国語翻訳)、『청교도』(基督教連合新聞社, ソウル, 2010年, 大木英夫『ピューリタン』の韓国語翻訳)。

〔論文〕「P・T・フォーサイスにおける戦争倫理」(古屋安雄他編『歴史と神学——大木英夫教授喜寿記念献呈論文集 下巻』聖学院大学出版会, 2006年), 「P・T・フォーサイスとピューリタニズム」(日本ピューリタニズム学会『ピューリタニズム研究』2, 2008年), 「初期韓国教会とピューリタニズム」(日本ピューリタニズム学会『ピューリタニズム研究』4, 2010年)。

深井 智朗 ふかい・ともあき

1964年生まれ。アウクスブルク大学哲学・社会学部博士課程修了。Dr.Phil. (アウクスブルク大学), 博士(文学)京都大学。現在, 金城学院大学人間科学部教授。

〔著書〕*Paradox und Prolepsis*, Marburg 1996, 1999 (2.Aufl.), 『超越と認識』(創文社), 『十九世紀のドイツ・プロテスタンティズム——ヴィルヘルム帝政期における神学の社会的機能についての研究』(教文館), 『思想としての編集者——現代ドイツ・プロテスタンティズムと出版史』(新教出版社), 『ヴァイマルの聖なる政治的精神——プロテスタンティズムとナショナリズム』(岩波書店) など。

豊川 慎 とよかわ・しん

1977年生まれ。関西学院大学神学部, キリスト教学術研究所大学院 (Institute for Christian Studies, Toronto, Canada) 修士課程, アムステルダム自由大学哲学部修士課程, 聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科博士課程修了。博士(学術)。現在, 聖学院大学総合研究所特任研究員。

〔訳書〕P・ヘスラム『近代主義とキリスト教——アブラハム・カイパーの思想』(共訳, 教文館, 2002年), A・マクグラス『キリスト教の霊性』(共訳, 教文館, 2006年) ほか。

〔論文〕「河井道——平和を希求する人格の教育」南原繁研究会編『真理の力——南原繁と戦後教育改革』(to be出版, 2009年), 「A.D. リンゼイのデモクラシー思想とピューリタニズム」(日本ピューリタニズム学会『ピューリタニズム研究』第4号, 2010年) ほか。

田中 佳 たなか・けい

一橋大学社会学部，パリ第1大学大学院考古学・美術史研究科を経て，2009年3月，一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程修了。博士（社会学）。現在，一橋大学大学院社会学研究科特別研究員，聖学院大学政治経済学部ほか非常勤講師。専攻は近世フランス文化史・美術史。

〔論文〕「美術における『公衆』の誕生——1740年代後半の論争を中心に——」『一橋論叢』第131巻第2号，日本評論社，2004年2月，55-73頁；「王立美術館のメッセージ——ダンジヴィレの奨励制作とルーヴル宮美術館創設計画——」『日本18世紀学会年報』第20号，日本18世紀学会，2005年6月，55-66頁；「ダンジヴィレの奨励制作——自国史への関心と『フランス派』の形成」、『鹿島美術研究』，鹿島美術財団，年報第26号別冊，2009年11月，183-194頁；「ルーヴル美術館構想の萌芽——リュクサンブール宮ギャラリーの開設とその機能（1747-1750年）——」、『一橋社会科学』，2009年11月，第1巻第2号，1-13頁；「フランス革命前夜のルーヴル美術館計画（1751-93年）」、『聖学院大学総合研究所紀要』，第47号，2010年3月，461-490頁；« La Font de Saint-Yenne: sa vie et son œuvre (1688-1771) »，『聖学院大学総合研究所紀要』，聖学院大学総合研究所，2010年12月，第49号，IV，11-26頁；「アンシャン・レジーム末期の偉人の称揚——ダンジヴィレの『奨励制作』偉人像と美術館の役割——」『日仏歴史学会会報』第26号，2011年6月，3-18頁；「フランス革命前夜における美術行政と公衆——ダンジヴィレの『奨励制作』（1777-1789）を事例として——」『西洋史学』，第242号，2012年予定ほか。

〔翻訳〕『コロ展』（展覧会カタログ），共訳，読売新聞社，2008年6月；『ルーヴル美術館展——美の宮殿の子どもたち——』（展覧会カタログ），共訳，朝日新聞社，2009年3月；『ターナーから印象派へ』（展覧会カタログ），共訳，アルティス，2009年7月；『マリー＝アントワネットの画家ヴィジェ＝ルブラン展』（展覧会カタログ），共訳，日本経済新聞社，2011年3月ほか。

林 明仁 はやし・あきひと

1979年生まれ。東京大学大学院総合文化研究科博士課程。JICA専門家。2012年3月まで聖学院大学非常勤講師（NGO・NPO論），特定非営利活動法人国際協力NGOセンターなど。

〔主な論文〕「地雷廃絶運動の「成功」から成功へ」金敬黙，福武慎太郎，多田透，山田裕史編『国際協力NGOのフロンティア』明石書店，2007年。「平和構築における民間企業とNGO——地雷対策を例に」『国際安全保障』内外出版，36巻2号，2008年など。

伊藤 泰 　いとう・やすし

1973年生まれ。早稲田大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得満期退学。現在、聖学院大学政治経済学部非常勤講師。

主な著作に、『近代法とその限界』（共著、御茶の水書房、2010年）、『スンマとシステム——知のあり方——』（共著、財団法人国際高等研究所、2011年）、『ゲーム理論と法哲学』（成文堂、2012年）、など。

土方 透 　ひじかた・とおる

1956年生まれ。中央大学大学院文学研究科博士後期課程修了。社会学博士。現在、聖学院大学政治経済学部教授。Forschungsinstitut für Philosophie Hannover, Würzburg 大学哲学部等の客員教授を歴任。

〔著書〕『法という現象——実定法の社会学的解明』ミネルヴァ書房、『現代社会におけるポスト合理性の問題——マックス・ヴェーバーの遺したもの』（編著）聖学院大学出版会、『ルーマン——来るべき知』（編著）勁草書房、『宗教システム／政治システム——正統性のパラドクス』（編著）新泉社、『リスク——制御のパラドクス』（共編著）新泉社、*Riskante Strategien: Beiträge zur Soziologie des Risikos*, (Hrsg. mit A. Nassehi) Westdeutscher Verlag. ほか。

〔訳書〕N・ルーマン『法解釈学と法システム』日本評論社、N・ルーマン『法の社会学的観察』ミネルヴァ書房、T・トイプナー『ルーマン　法と正義のパラドクス——12頭目のラクダの返還をめぐる』（監訳）ミネルヴァ書房、ベッカー『ルーマン　社会システム理論入門』（監訳）新泉社、ベッカー『ルーマン　社会理論入門』（監訳）新泉社、G・トイプナー『オートポイエシス・システムとしての法』（共訳）未来社、N・ルーマン『宗教論』（共訳）法政大学出版局、N・ルーマン『自己言及性について』（共訳）国文社、N・ルーマン『ルーマン、学問と自身を語る』（共編訳）新泉社、ほか。